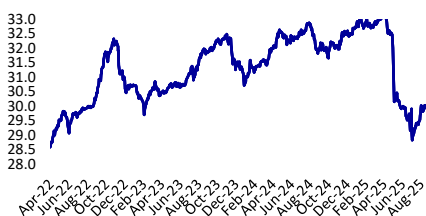
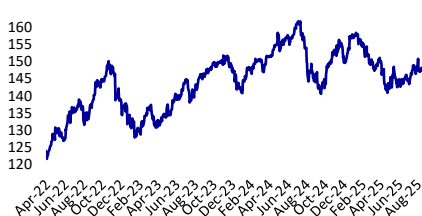


市場動向

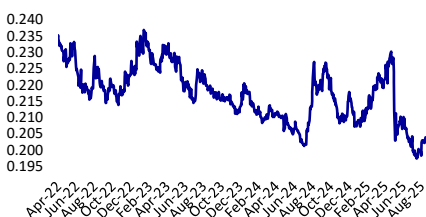
■USD/TWD



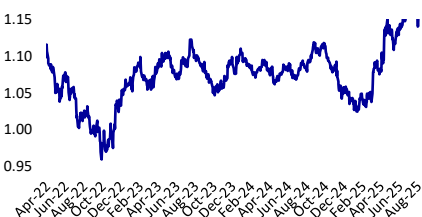
■USD/JPY



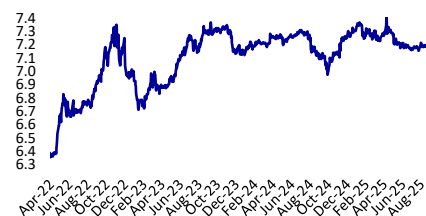
■JPY/TWD



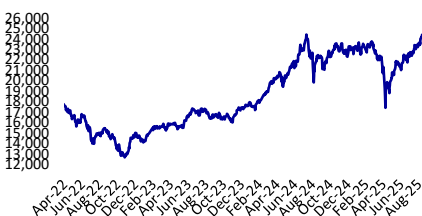
■EUR/USD



■USD/CNH

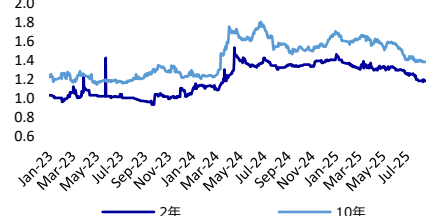


■台湾加権指数



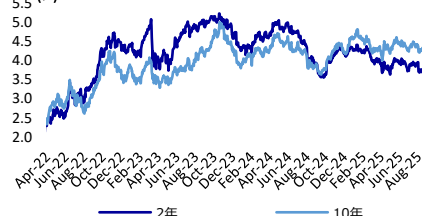
■台湾國債利回り

(%)



■米国債利回り

(%)



先週の市場動向

■USD/TWD

先週のUSD/TWDは上昇。8/11、29.880でオープンした後、米国CPIを睨みながら、米台間の関税問題の交渉が続くことから、取引は依然として不透明。台湾株式市場は上昇したが、午後外国投資家は資金流出に転じ、USD/TWDは一時29.916まで上昇。8/12、台湾株は直近の高値を更新したものの、外資による送金でドル買い優勢の展開となり、終値30.026でクローズ。8/13、7月の米国CPI伸び率が予想より低かったため、FRBによる利下げへの期待が高まり、ドルは一時29.920まで下落。8/14、外資によるドル買いで下値をサポートする一方、輸出企業は30価格台での売りを待ち構えているため、方向感の出にくい相場。8/15、先日発表された米PPIの伸び率は予想を上回ったことで、市場参加者の利下げ期待は弱まり、ドルは一時30.065まで下落。最終的には前週比0.5%ドル高台湾ドル安の30.010でクローズ。週間の外国人投資家の株式売り越し額は17.7億台湾ドル。

■USD/JPY

先週のUSD/JPYは下落。8/11、147.55でオープン後、日本は休場のため取引量は少なく、レンジ推移。海外時間では米国CPIの公表に注目が集まる中、米国債利回りは堅調に推移し、148円を上回った。8/12、米中関税の延長とウクライナ停戦への期待を背景にリスク選好が高まり、日本株は上昇し、ドルは一時148円台後半まで上昇。一方、米国は7月のCPI上昇率が予想より下回ったことで、FRBによる利下げの期待が高まり、ドルは反落。8/13、日本株が上昇を続け高値を更新すると、円売りが強まり、ドル売り優勢の展開。海外時間では、米金利の低下とともにドル安が進み、ドルは一時147.38まで反落。8/14、前日のベッセント米財務長官による日米金融政策に関する発言を受け、米金利の低下に伴い円買いが強まり、ドルは146円台半ばまで下落。海外時間では、米国が発表した7月の生産者物価指数PPIが予想を上回ったことを受けドル買いが進み、一時147.77まで上昇。8/15、日本の第2期実質GDP成長率が予想を上回ったことで、日銀の早期利上げに対する期待が高まり、ドルは一時147円近辺まで下落。最終的には前週比0.4%ドル安円高の147.19でクローズ。

■USD/TWD 予想レンジ：29.800-30.200

今週のUSD/TWDはレンジ推移となる予想。台湾は依然として関税の影に覆われ、米国債利回りの上昇でドル買いが押される可能性。しかし、台湾株式市場は足元で堅調な地合いを維持していることから、過去最高値を更新しようとしている中、売買は横ばいとする予想。USD/TWDはレンジ推移と予想。

■USD/JPY 予想レンジ：145.50-149.50

今週のUSD/JPYは上値重い展開となる予想。日本の4-6月期GDPが予想を上回ったことを受け、日銀による早期利上げへの期待が高まっている。市場の注目はヤクソンホール経済シンポジウムにおけるパウエル議長の講演であるが、過度なタカ派の発言がない限り、日米金利差は引き続き縮小し、円買いが進むと予想。

今週の予想

8/18 (MON)	米8月NAHB住宅市場指数
8/19 (TUE)	米7月住宅着工件数
8/20 (WED)	FOMC議事録
8/21 (THU)	米8月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数、米7月中古住宅販売件数
8/22 (FRI)	日7月CPI

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。